

【歴史・伝統の要素】

- 文化財は船場や平野郷、住吉大社周辺、田辺、夕陽丘周辺に集積している。
 - 生きた建築ミュージアム・大阪セレクションは御堂筋を中心に50件選定されている。
 - 寺院・仏閣については、上町台地の特に夕陽丘に集積が見られる。
- 平野郷、住吉大社、田辺、夕陽丘など近世以前に起源のある市街地では、寺社をはじめ伝統的な建物も多く立地し、歴史性を感じさせる景観が形成されている。
- 船場地区では、多くの文化財や近代建築が分布し、高層ビルのまちなみの中でアクセントとなって景観に深みを与えている。

○歴史的・文化的資源

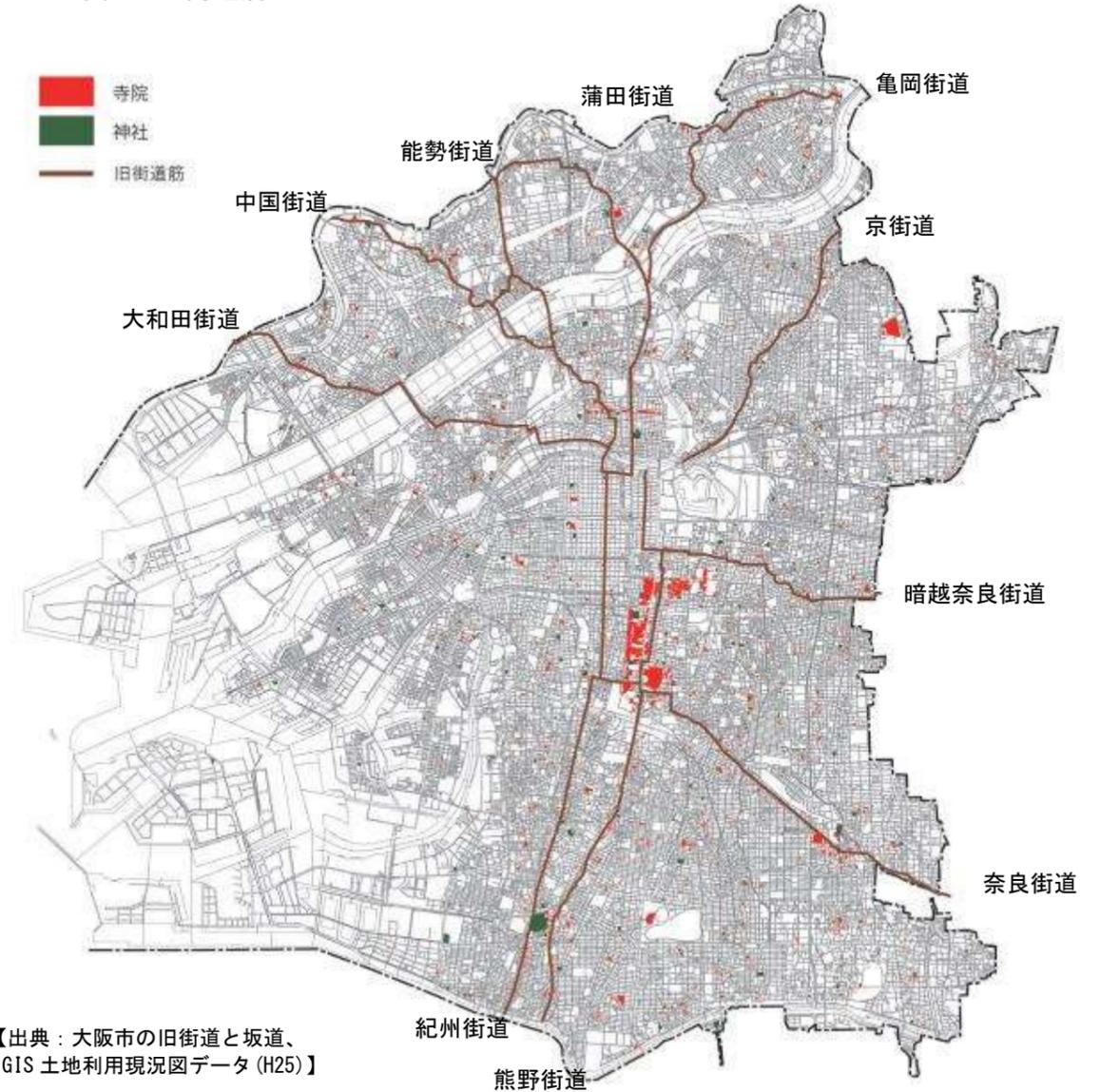
- 文化財(建造物)
- 生きた建築ミュージアム・大阪セレクション
- 文化財(建造物)かつ生きた建築ミュージアム・大阪セレクション
- 名勝等・史跡公園等
- 歴史の散歩道等



(注) 文化財は建造物、名勝、及び府または市が整備した史跡公園等を掲載

○寺社・旧街道筋

- 寺院
- 神社
- 旧街道筋



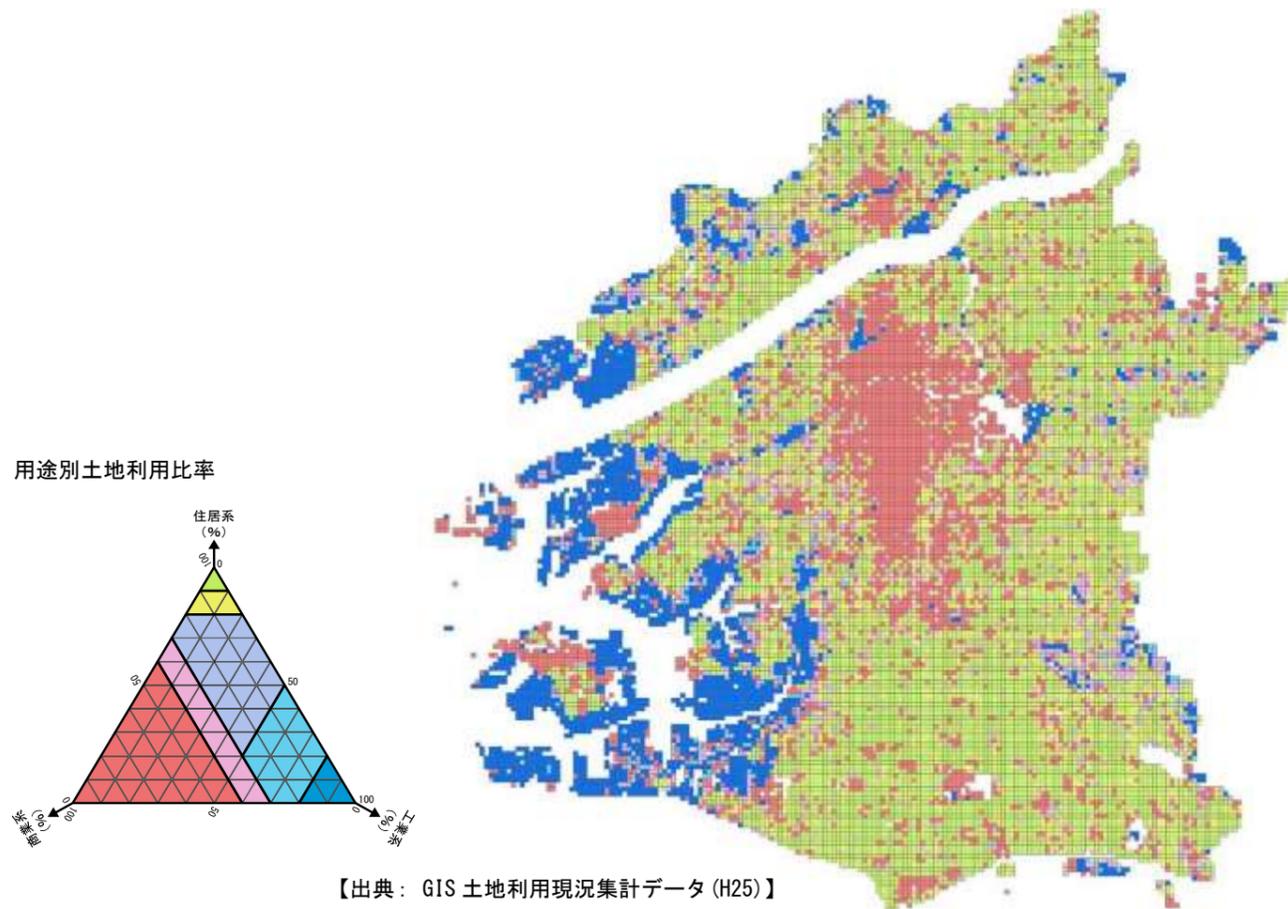
【出典：大阪市の旧街道と坂道、GIS土地利用現況図データ(H25)】

【都市空間の要素：面的な空間要素】

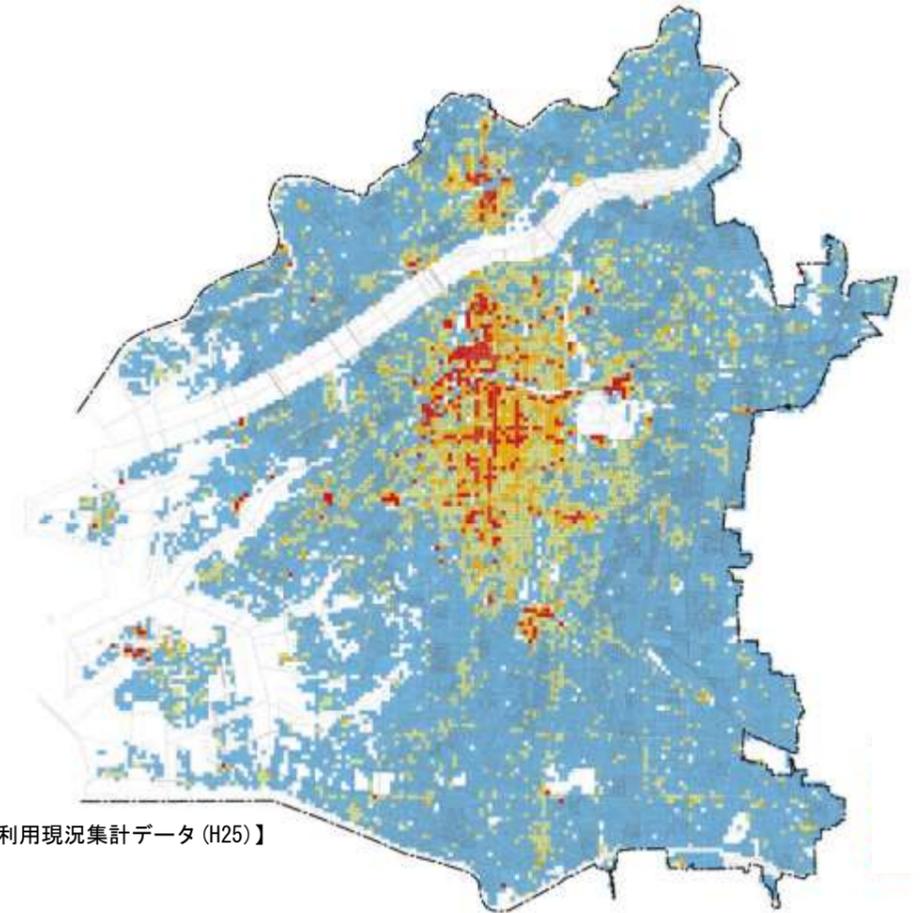
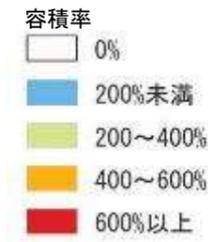
- 本市では、臨海部に工業系用途、都心部に業務・商業系用途が集中しており、周縁部は概ね住居系用途となっている。建築物等の種類や配置、形態等は土地利用に大きく依存するため、これら建築物等が大きな要素となっている景観についても、土地利用類型により大まかな分類ができるといえる。
- 容積率と敷地規模の分布を見ると、都心部の業務・商業系用途が集中するエリアでは容積率が高くなっている。一方、臨海部については、大規模な敷地の分布と低い建物容積（周辺部と同程度）が特徴として見られる。
- 詳細な建物主用途分布の図では、都心部は業務系用途が卓越する地区と、商業系用途が卓越する地区に分けられることがわかる。

- 臨海部、都心部、一般市街地で基本的な土地利用の構成が異なり、景観の大きな特性も異なっている。
- 都心部は高密度の建築物群による景観が、臨海部は大規模な建築物や構造物によるダイナミックな景観が、一般市街地はヒューマンスケールの景観が大きな特性である。
- 都心部では業務系用途が多い地区と、商業系用途が多い地区ではまちなみの特徴は異なっている。

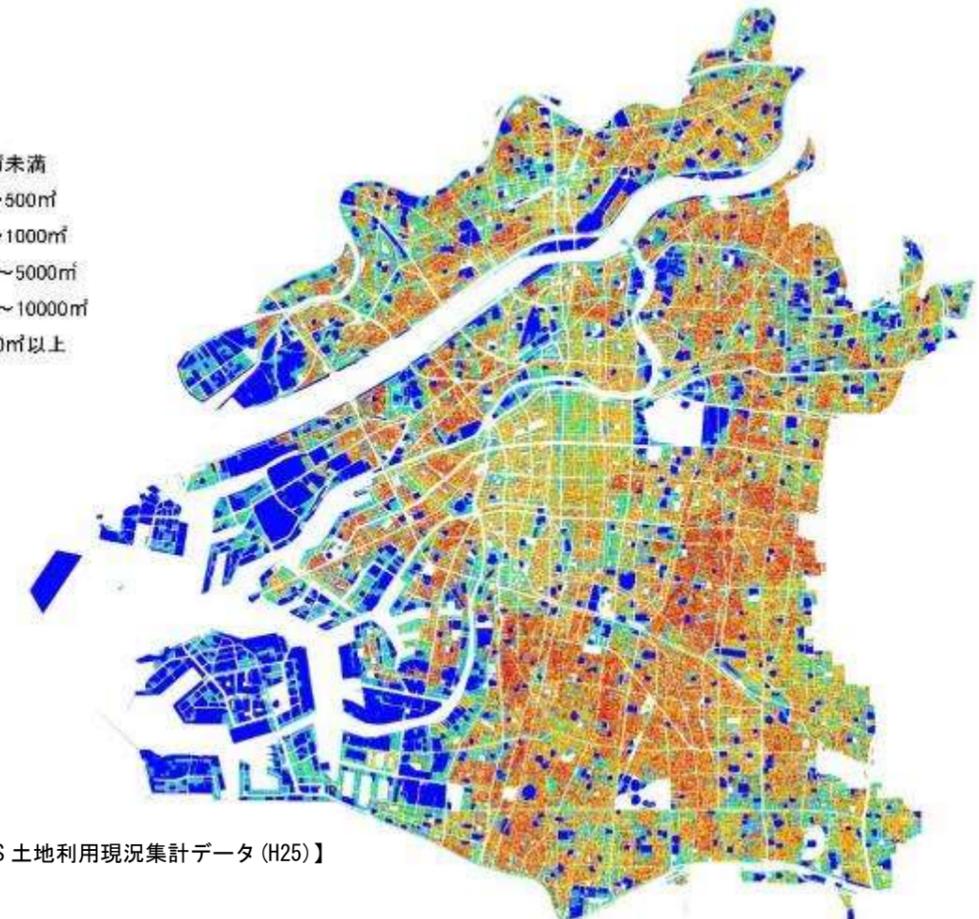
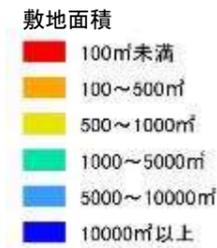
○土地利用類型



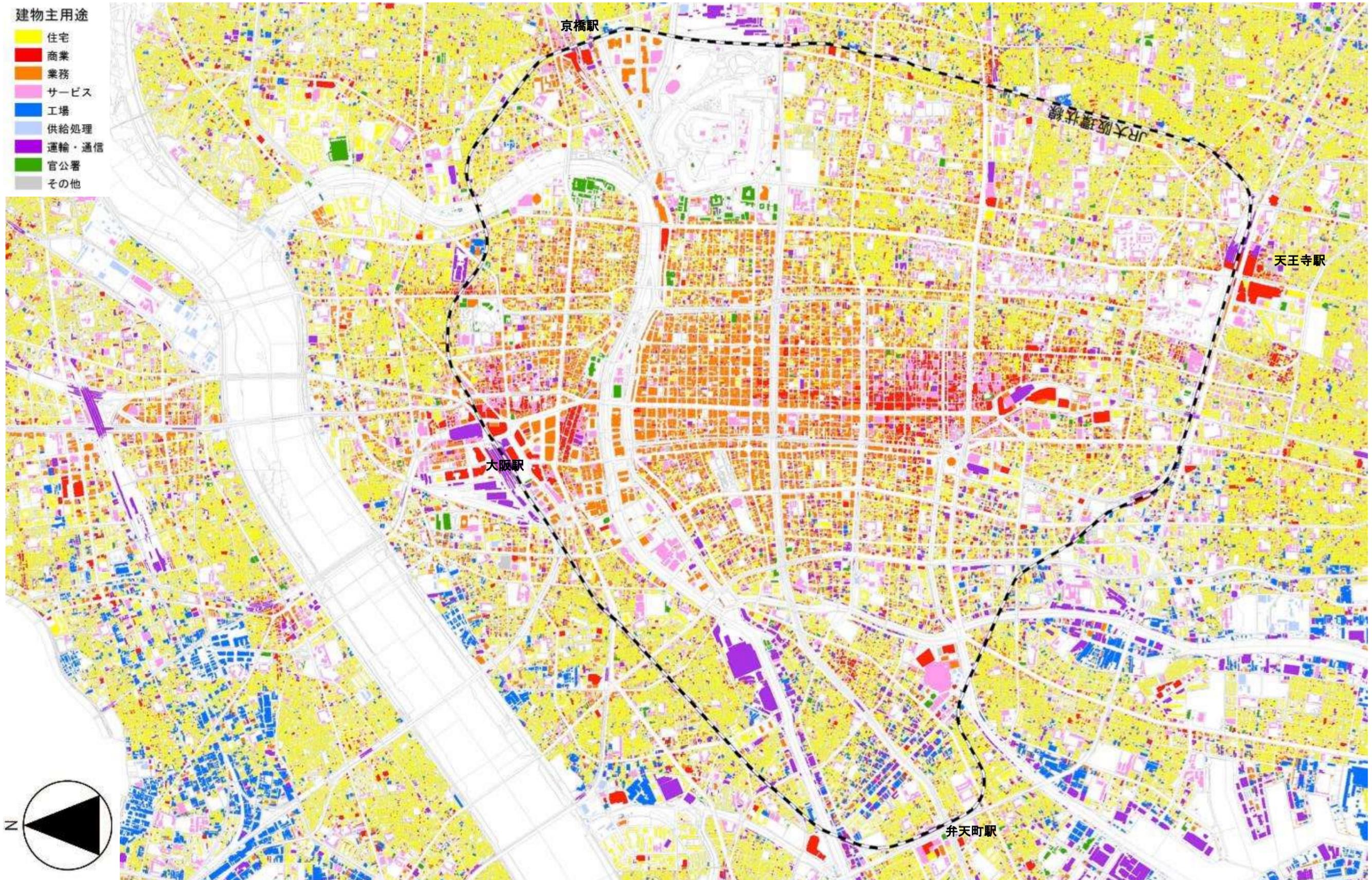
○建物容積



○敷地規模



○主用途別建物分布（都心部）



【出典：GIS建物現況図データ（H25）】